

会 議 録

会議の名称	第一回上尾市産業振興ビジョン策定委員会
開催日時	平成 24 年 9 月 24 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 25 分
開催場所	プラザ 2 2 第二会議室
議長（委員長）氏名	河藤 佳彦
出席者（委員）氏名	山崎好信、大木保司、青木幹二、小川 均、黒澤 久、野崎 実、 神田隆雄、久保埜良幸、今村至孝、近藤博昭、山口栄二、黒澤 治、 小谷野茂、小川厚則、尾崎俊治、和田正憲 （17名）
欠席者（委員）氏名	なし
事務局	商工課：小幡、榮、大上 農政課：佐藤、小宮山、仲間、山田
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長挨拶 4. 委員自己紹介 5. 委員長及び副委員長の選出 6. 委員長及び副委員長挨拶 7. 基調講話 「地域における産業の役割と地域産業政策について」 高崎経済大学地域政策学部教授 河藤 佳彦氏 8. 議事 (1) 上尾市の現状について (2) 策定委員会の検討内容及びスケジュールについて 9. その他 10. 閉会
会議資料	資料 1 上尾市産業振興ビジョン策定委員会、作業部会名簿 資料 2 上尾市産業振興ビジョン策定委員会設置要綱 資料 3 基調講話資料「地域における産業の役割と地域産業政策」 （参考資料）地域産業の栄えるにぎわいにあるまちづくり ～八尾市中小企業地域経済振興基本条例～ 資料 4 上尾市の産業的ポジショニングについて 資料 5 上尾市の現状について 資料 6 商店街位置図 資料 7 「上尾市産業振興ビジョン」の策定について

1 開会

事務局：本会議の開会を宣言

2 委嘱状交付

島村市長から各委員に委嘱状を交付する。

3 市長挨拶

事務局：島村市長から挨拶を述べたい。

市長：本日はお忙しい中のご出席、まことにありがとうございます。ただいま、上尾市産業振興ビジョン策定委員 17 名の方に委嘱状をお渡しした。長らく経済的に低迷しており、国においても財政が落ち込む中、地方に援助できない状況が続いている。産業の振興は、地域振興においてきわめて重要である。産業が栄えなければ、まちが滅びるとも認識している。上尾市産業振興ビジョンは、平成 24 年度、25 年度の 2 か年にわたって策定していくものであるが、商業、工業、農業の関係者及び金融機関など、幅広い分野の方々に検討していただきたい。また、上尾市は「自転車のまち」でもあるので、そのことも含めて検討していただきたい。上尾市は、子どもからお年寄りまですべての方が幸せになるよう事業を展開している。本委員会においては、様々な立場からの奇譚のないご意見をいただき、実効性のあるビジョンを策定していただきたく願いたい。

事務局：市長はこの後の予定が入っているので、退席させていただきたい。

(市長退席)

4 委員自己紹介

事務局：本日出席の委員の方から自己紹介いただきたい。

(各委員自己紹介)

事務局：本日は 17 名の委員が参加、過半数を超えているので、委員会設置要綱第 6 条 2 項にもとづき、会議が成立することを報告する。

事務局：続いて、事務局から自己紹介したい。

(事務局自己紹介)

5 委員長及び副委員長の選出

事務局：委員会設置要綱第 5 条 1 項では、委員長及び副委員長は委員の互選によると定めている。

委員：選出は事務局に一任する。

事務局：委員長には河藤佳彦委員、副委員長には小川均委員を提案したい。

委員：事務局の提案を承認。

事務局：全委員の承認をいただいたので、河藤佳彦委員長、小川均副委員長、よろしく

お願いいたします。

6 委員長及び副委員長挨拶

事務局：委員長及び副委員長からご挨拶をお願いしたい。

委員長：委員の皆さんは、地元に対する思いが強いと感じている。商業、工業、農業、観光など様々な分野があるが、思いを具体的な形にして、上尾市全体の活性化につなげていくかが課題であると認識している。私事ではあるが、地元の高崎市で観光振興計画を策定するにあたり、「観光ビジョン研究会」というワーキング部会を作り、2年度にわたって座長を務めた。そこでは、まず地元のいいものを認識し、その活用を実践するなど、アクションから入った。皆さんの思いを具体的な形にしていくことを取り組んでいきたい。

副委員長：商工会議所の副会頭として、主に工業振興を担当している。「まちの顔」は商業、「まちの力」は工業、そして行政はそれらを支えていく。これからの1年半、皆さんと一緒にビジョン策定を頑張っていきたい。

7 基調講話「地域における産業の役割と地域産業政策について」

事務局：講師・河藤委員長のプロフィール紹介

議長：本日の講話の内容は、皆さんに共通認識を持っていただくための話と、大阪府八尾市の具体的事例の紹介である。八尾市は東大阪市に隣接し、大都市近郊のものづくりの町であることは、上尾市と類似性がある。

(講話内容)

○産業とは何か

- ・産業の定義
- ・社会における産業の役割
 - －生活水準の質的向上
 - －たとえば、商店街＝付加価値、生業…に加えて、コミュニティの形成
- ・産業の諸相（地域の事例紹介）
 - －秋田県湯沢市（稲庭うどん、漆器）、福井県鯖江市（眼鏡）、岩手県葛巻町（酪農、ワイン）など

○地域と産業

- ・地域とは何か
 - －問題意識を持った時に、そこが「地域」となる。
- ・産業の「地域」における重要性
 - －たとえば、上尾の個性の一つとして、近郊農業などもあげられる。

○産業政策と地域産業政策

- －産業政策は元々国全体の政策であったが、今では、国はもとより地域の産業政策も重要である。
- ・産業政策とは

- ・産業政策はなぜ必要か
 - －自立できるということが重要である。
- ・中小企業政策との密接な関連性
 - －中小企業が弱いから支援するというのではない。中小企業が地域に根ざしているということが、地域産業政策の核心。
- 中小企業基本法（1963年制定）の大幅改正（1999年）
 - ・（改正前）国、地方公共団体の「施策」
 - ↓
 - （改正後）国、地方公共団体の「責務」に
- 地域産業政策の先進事例：大阪府八尾市
 - ・上尾市との共通点＝大都市近郊にある一機械産業の適地
 - ・八尾市の製造品出荷額が大きく減少し、なんとかしなければということで「八尾市産業振興会議」を1998年に立ち上げた。
 - ・「八尾市産業振興会議」では、ビジョンの策定、「八尾市中小企業地域経済振興基本条例」の制定、運営事業などを市に提案し、市民参加・事業者参加の仕組みづくりなどを行っている。
- 「八尾市中小企業地域経済振興基本条例」に基づき実施された主な産業政策
 - ・ものづくり集積奨励金制度
 - ・中小企業サポートセンター事業
 - ・「ものづくりのまち・八尾」ブランド化推進事業
 - ・商業ネットワーク化支援事業（八尾あきんど On-Do ネット）
 - ・異業種交流グループ等新製品・新技術開発支援事業

8 議事

（1）上尾市の現状について

コンサル：

- 埼玉県の特徴と工業立地
 - ・交通網がいい、巨大マーケットの中央に立地、多種多様な製造業の集積、というメリットを有する→企業誘致策の展開
 - ・現在、圏央道沿道で企業誘致が盛んである。
- 人口
 - ・人口はある一定の時期に急速に増加した。
 - ・かつては、団塊の世代が埼玉県をはじめとする東京圏に流入し、その子どもたちは都心に回帰しはじめている。
 - ・埼玉県内では、県南では人口が増加し、県北では人口が減少している。団塊ジュニアを集められているのは県南のみである。
- 上尾市の特徴
 - ・人口の推移は、増加した後、やや横ばいといったところである。高齢者の割

合は増えている。

- ・ 就業者の流出については、約 37,000 人が市外に働きに出ている。うち、東京都へは約 20,000 人、さいたま市へは約 12,000 人流出している。
- ・ 100 人以上の大手の事業所に勤めている従業者割合は、上尾市で 28.2%、埼玉県では 24.0%である。また、業種的にみても上尾市は埼玉県の特徴と一致している。
- ・ 工業に関する指標をみると、29 人以下の工場は、工場数も製造品出荷額等も大幅に減少している。リーマンショックの影響が大きい。
- ・ 製造品出荷額等の埼玉県内の順位は、上尾市は 9 位。1 位の狭山市が突出しているのは、ホンダの工場があるため。2 位以降は人口規模に比例している。
- ・ 商業について。小売業の年間商品販売額は埼玉県内で 5 位。商店街の数が多い。大型店については、近年は 1 万㎡以上の出店は少ない。
- ・ 農業について。市内には 6 次産業化を行っている事業者もある。
- ・ 観光について。埼玉県では、埼玉「超」観光立県宣言を出すなど、平成 21 年頃から観光に力を入れ始めている。
- ・ 地価について。平成 20 年に一時的に持ち直すものの、再び下落に転じている。
- ・ 埼玉県の経済動向について。現在は大手チェーンのミニスーパー的店舗の出店が加速している。また、工業は厳しい状況下にある。産業立地は比較的好調である。

事務局：

○上尾市の人口動態予測

- ・ 国勢調査では市の人口は約 3,700 人増加しているが、15～64 歳人口については平成 17 年から減少が始まっている。こうしたことを背景として、将来的には個人市民税の減少が懸念される。

○上尾市の財政状況

- ・ 扶助費の増加が顕著である。
- ・ 普通建設事業費は平成 8 年がピークであった。この時は、清掃工場や都市公園などの整備があった。平成 10 年以降は減少している。
- ・ 最近の課題は学校の耐震化をはじめとする、資産の更新問題である。現在ある施設をそのまま維持するならば、年間で 67 億円必要になると見込まれている。

○上尾市の商業について

- ・ 小規模店舗が減少している。

○上尾市の工業について

- ・ 平成 22 年の年間製造品出荷額等は約 3,900 億円。多い時は 5,000 億円以上あった。

○上尾市の農業について

- ・農家戸数は年々減少している。

議 長：先ほど説明していただいたデータは、次からの議論でも有効に活用していきたい。商店街位置図については、集積等の場所の確認も必要と考え、事務局に用意していただいた。

(2) 策定委員会の検討内容及びスケジュールについて

事務局：

○産業振興ビジョンの策定目的

- ・背景には、人口構造や環境の変化がある。
- ・上尾道路が宮前から圏央道までつながり、平成 26 年度以降の早い時期に開通する見込みになっている。
- ・上尾駅西口から 2.6km の距離の場所に、平成 25 年ショッピングセンターがオープンする予定である。敷地面積 11 万㎡、売場面積 31,000 ㎡の大規模な施設である。
- ・地域の活性化、雇用、税収の増加につなげたい。

○所掌事務

- ・上尾市産業振興ビジョン策定委員会設置要綱の第 2 条に規定。

○スケジュール

- ・10 月 9 日に作業部会がある。作業部会を中心として、各団体へのヒアリング、各委員への個別ヒアリングを実施したい。
- ・今年度は現状把握、課題抽出を中心に、来年度は施策や推進方策の検討をしていく予定である。

議 長：今後は、策定委員会、作業部会ともにできるだけ情報共有しながら進めていきたい。それでは、この案の通りに進めさせていただいてよろしいだろうか。

委 員：異議なし。

議 長：本日の議事はすべて終了したので、事務局にお返りする。

9 その他

事務局：まず、本会議の公開についてご承認いただきたい。上尾市の審議会等の会議の公開に関する指針にもとづき、市の情報公開コーナーに提示する予定である。事務局としては、本会議を公開する方針である。ご異論がなければ進めたい。次に会議録の表記と公開について。会議録は、「議長」「委員」「事務局」の区分で、内容は要点筆記、ホームページ上で公開することとなる。これについてご意見はいかがか。

委 員：異議なし。

事務局：今後は、作業部会を中心としてヒアリング等を集中的に実施していく予定である。次回の会議には、この結果をまとめて提示したい。12 月の会議開催は厳しいので、年明けの 1 月くらいになると思われる。ほかにご意見、ご提案等あ

れば事務局にご連絡願いたい。

委員：次回から、会議資料は事前に配布していただけないだろうか。

事務局：その方向で努力したい。

10 閉会